



享樂のパリで、サーカスを愛した男。

ルオー財団特別企画展

ジョルジュ・ルオー

アイラブ I ♥

サーカス CIRCUS

Georges Rouault Cirque Forain

2012年10月6日|土|~12月16日|日|

Shiodome Museum
ROUAULT GALLERY

休館日：水曜日 開館時間：午前10時より午後6時まで（ご入館は午後5時30分まで）

パナソニック
汐留ミュージアム

入館料：一般 800円（65歳以上700円）/大学生 600円 / 中・高校生 200円 / 小学生以下無料
※20名以上の団体は100円割引 ※障がい者手帳をご提示の方、および付添者1名まで無料でご入館いただけます。

主催：パナソニック 汐留ミュージアム、朝日新聞社 後援：フランス大使館、NPO法人国際サーカス村協会、港区教育委員会 特別協力：ジョルジュ・ルオー財団 協力：エールフランス航空、アサヒビール株式会社
ルオー（貴族的なピエロ）1941-42年 アサヒビール株式会社蔵 ©ADAGP Paris & JASPAR, Tokyo, 2012 B0019 ○シャルル・レヴィ（シルク・フェルナンド マルティール選り）夏の音楽会）ポスター（部分）1880-1900年頃 カルナヴァレ美術館蔵 ○シャルル・レヴィ（シルク・フェルナンド マルティール選り）毎晩8時半から）ポスター（部分）1880-1900年頃 カルナヴァレ美術館蔵 ○Musée Carnavalet / Roger-Viollet ○（シルク・メドラノ プラン・プラン）プログラム（部分）モンマルトル美術館蔵 ○（シルク・メドラノ）プログラム（部分）モンマルトル美術館蔵 ○（タバランのフレンチ・カンカン）パテ社製ビクターレーベルSP盤（部分）1950年 個人蔵、パリ

ルオーのサーカスへようこそ。

サーカスのテーマは、ジョルジュ・ルオーの全絵画作品の3分の1を占めています。美術史全体においても、一人の画業の中でここまで大きな割合で取り扱われたことはないでしょう。ロートレックやピカソなど、画家の誰もが取り上げているサーカス——

しかし、ルオーのサーカスには、彼らとはひと味違う特別な意味があるのです。本展では、ルオーがサーカスを着想源にして描いた初期から晩年までの重要な絵画や版画が一堂に集結します。さらに、ルオーが実際に見たサーカスのポスターやプログラムなどの貴重な資料が初公開されます。19世紀末から20世紀初頭の風俗を追いながら、ルオーのサーカスの世界を解明します。

1900~1910年

第1幕 悲哀-旅回りのサーカス

左：《サーカス》1905年、水彩・パステル、パリ市立近代美術館
右：《夕陽に於て(シャユリ)》1905年、水彩・パステル、パリ市立近代美術館
©Musée d'Art Moderne/Roger-Viollet



貧しい少年時代、さらびやかなサーカスの世界に夢中だったルオー。道化師はルオーにとって常にアイドルであり、また、孤独と悲劇性を帯びた人間の象徴でした。

1920~1930年

第2幕 喝采-舞台をひと巡り



サーカスの道化師たちが舞台上で一堂に挨拶します。ルオー最大級の油彩画が本邦初めて3点揃って展示されます。

左：《踊り子》1931-32年、油彩、ルオー財団、パリ
右：《傷ついた道化師》1929-39年、油彩、個人蔵、ジュネーブ

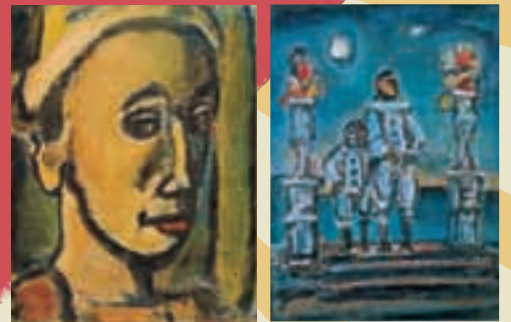
描いた初期から晩年までの重要な絵画や版画が一堂に集結します。さらに、ルオーが実際に見たサーカスのポスターやプログラムなどの貴重な資料が初公開されます。19世紀末から20世紀初頭の風俗を追いながら、ルオーのサーカスの世界を解明します。

われわれは皆、
道化師なのです。
ジョルジュ・ルオー



1940~1950年

第3幕 記憶-光の道化師



晩年、道化師は愛と犠牲を体現するキリスト的な人物像と一体化していきます。色彩は輝きを増し、最後は光の中に溶解していくようです。

左：《うつるな夢》1946年、油彩、ボンビドールセンター国立近代美術館、パリ ©Centre Pompidou, MNAM-CCI, Dist. RMN/Philippe Miget/distributed by AMF
右：《青いピエロたち》1943年頃、油彩、個人蔵(ルオー財団協力)、パリ

この展覧会はジョルジュ・ルオー財団の協力のもと開催されます。Exposition réalisée avec le concours de la Fondation Georges Rouault. ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2012 B0019

関連イベント

山田五郎 アートトーク

人気テレビ番組「ぶらぶら美術博物館」(BS日テレ)などでおなじみの山田五郎さんがルオーや同時代の画家たちについて楽しく美術談話します。



2012年11月2日(金) 午後1時30分~2時30分(開場 午後1時)
会場：パナソニック東京汐留ビル 5階ホール
※要予約(定員200名)

サーカスワークショップ

「ジャグリングに挑戦! さきも即席パフォーマンス」
講師：金井圭介氏



2012年11月10日(土) 午後2時~3時30分(開場 午後1時30分)
会場：パナソニック東京汐留ビル1階ロビー ※要予約(定員20名)

本展監修者によるスライドトーク

講師：後藤新治氏(西南学院大学教授)



2012年12月1日(土) 午後1時~2時
会場：パナソニック東京汐留ビル 5階ホール ※要予約(定員80名)

学芸員によるギャラリートーク

2012年10月20日(土)、11月17日(土)、12月7日(金) 各回 午後2時~2時45分

参加費無料(入館には観覧券が必要です)※予約不要
会場：パナソニック 汐留ミュージアム

申し込み方法…普通はがきに①イベント名②参加人数(1通につき2名まで)③氏名④住所⑤電話・FAX番号をご記入の上、〒105-8301 東京都港区東新橋1-5-1-4F パナソニック 汐留ミュージアム「ジョルジュ・ルオー」展係までお送りください(締切:各回の開催日1週間前まで)。受付は先着順、定員になり次第締め切らせていただきます。

※お申し込みにあたってご記入いただいた個人情報は、本イベントの受贈管理の目的のみで使用し、終了後に破棄します。なお、お申し込みいただいた場合、ご記入いただいた個人情報に関して上述の目的での使用に同意いただいたものとさせていただきます。
※聴講は無料ですが、本展の観覧券が必要です。



【I♥PARIS 優待のご案内】

三菱一号館美術館「シャルダン-静寂の巨匠-」展の観覧券の半券をお持ちいただくと100円割引でご入館いただけます。(一般と大学生のみ)

東京都港区東新橋1-5-1 パナソニック東京汐留ビル4F
JR「新橋」駅より徒歩8分、
東京メトロ銀座線・都営浅草線・ゆりかもめ「新橋」駅より徒歩6分、
都営大江戸線「汐留」駅より徒歩5分
お問合せ：ハローダイヤル 03-5777-8600
http://panasonic.co.jp/es/museum

Shiodome Museum
ROUAULT GALLERY

パナソニック 汐留ミュージアム

【次回予告】日本の民家1955 - 二川幸夫・建築写真の原点 -
2013年1月12日(土)~3月24日(日)